

〇 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题用紙に書くこと)

昔から庄屋の帳面とか、土地の譲り渡し状とか、公卿その他の日記とか、**尨**^(a)大な記録があつて、歴史の資料として貴重なものである。近代に入つてからは、官庁や会社の報告・統計の類はめちやくちやにたくさんある。これらも専門の研究者にとつて重要な研究材料になりうるかもしれない。がしかし文学のたのしみとは縁どおい⁽¹⁾。

しかしそういう紙屑の山でしかない記録の中にも執筆者の深い感慨がもりこまれていたり、見方の鋭さで人生や社会をみごと**に**^(b)截断していたりしている部分がまじつていて、それじしん文学的な興味をよびますものがまじつていないではない。日記とか手紙とかにおいて、しばしば、そういう要素が光っているのを見つけることが多い。たとえば宮中の有職故実や儀礼のことを記録している平安朝の公卿の漢文日記などで、ときたま当人の怒りや悲しみを洩らした二、三字が挿入されていると、生きた人に出会つたような感動をおぼえることがある。定家の『明月記』ともなれば、ずいぶん興味深いものになつてくる。手紙なども本来は用件を伝えるためのもの、つまり実用を旨としているのだが、人間どうしのコミュニケーションだからつい何かのはずみに感情を吐露してしまい、怒つたり哀訴したりするところに、人生の相が浮かびあがつてくるものがめずらしくない。さいきん、べつの必要から吉田松陰を読んだが、その中でも牢内から門人たちに送つた手紙は、ヒステリー⁽⁴⁾になつて叱りつれたり絶交したり怒り狂つたりするさま、かれの尊王攘夷論に賛成反対はべつとして、すこぶるソウカン⁽⁴⁾であつた。近代ともなれば、きわめておもしろい書簡集を残した文学者がかなりいるけれども、徳川時代ではもつともおもしろい手紙であろう。

⁽²⁾ 探検記、旅行記は、記録文学の中で、興味(注1)の点からいつてもつとも大きな部類に属するだろう。明治以後に限つてながめても、河口慧海『西蔵旅行記』のような傑作があり、鈴木経勲『南洋探検実記』、福島安正『伯林^(ペルリン)より東京へ、単騎遠征』、白瀬^(のぶ)『南極探検』等、それぞれ危険にみちた異境に立入つて、それまでの日本人が見聞したことの新しい新奇な世界をひらくとともに、冒険のためについてやされる精神と肉体との緊張とエネルギーに

読者は、多かれ少かれ、打たれずにはすまぬのである。江戸時代には、国内でも奥羽のはてや九州のはてに旅行することは、冒険であり探検であったが、近代ともなれば、やはり世界の辺境地域まで歩かねば探検にならなくなった。

もちろん、旅行記もまた、記録文学のたのしい一類であり、しらべてみたら、明治維新以後、明治年代だけで欧米旅行記が数十種も発行されているのにはいささかおどろかされた。日本に西欧文明を輸入するために、かなりのひとびとが洋行した。といっても、その数は、えらばれた人士に限られている。その人々は日本の将来をになつて西洋から帰つてきたのであろう。だから洋行帰りは、自分の目で見た先進国のありさまを若干の驚異とか、なりの自慢とをもつて語らずにはいられなかつたようである。しかしご本人が自慢するほど、聞き手にはおもしろくないのも、またやむをえないことだろう。欧米を見物してまわれれば、はじめての洋行者には、ものめずらしさがいっぱいであろうが、しかしめずらしさと心の底からの驚異とは異質なものであり、まして文明国では、詐欺やかたりに出会うおそれはあつても、チベットに潜入するような全身的な冒険をする必要がなく、したがつてとかく精神までだれてしまいがちなのである。そういう弛緩した精神が読者に何らかの緊張をあたえうるはずがない。軽薄な洋行者の旅行記の大部分が、ひまつぶしがせいぜいであるのは当然ではあるまいか。

明治十一年に太政官記録係から出版された『特命全權大使米欧回覧実記』を記録文学の代表作として推すひとがあつたので、わたしも目を通した。明治四年十一月から同六年九月まで一年十ヵ月にわたつて欧米を回覧してきた岩倉具視・大久保利通等欧米特命全權大使一行の旅行記といへば、だれでも耳をそばだてて聞いてみたくなるにちがいない。条約改正交渉のために、出来たてほやほやの明治新政府の最高実力者がそろつて洋行する。それも太平洋を渡つて米国にしばらくとどまつたのち、大西洋を経て、イギリス、スコットランドを回り、フランス、ベルギー、オランダ、プロシア、ロシア、ノルウェー、スウェーデンの奥を歩き、さらに引返してオーストリア、スイスを見物、マルセーユから船に乗つて、紅海、インド洋を航海して帰国した世界一周旅行。しかもその留守中に国内では征韓論が沸騰していたのに、一行は、帰朝するや、その政策を叩きつぶして、政府重職の半

分を辞職させるといふような大事件をひきおこすのである。ところがこの『回覧実記』をひもといてみると、肝心の条約改正交渉の失敗については一行もふれられておらず、また、国内の政情などもぜんぜん無視されている。それどころか、大使一行が何を考え、何をしたかも書いてない。ただ途中で見物した地理・風俗・博覧会等について詳しく述べてあるが、それらは黄色に古ぼけた絵ハガキみたいにくすんでるだけで、わたしの内部の何ものをも触発しない。延々千ページ以上にわたってつづくこういう生命の緊張のない記述ほど味気ないものはない。もっとも外交、政治については別に報告があるから、ここでは省略することわってある。とはいふものの、せめて大使一行も人間の集団であつたから、旅の途中でさまざまな失敗やら互の感情的軋轢^cやら不安やら、あるいは欧米の新文明にはじめて接する驚異やら、人間的感情が流れていたに相違ない。そういうものが多少とも記述されていたら、実記と呼ぶに値しようが、現在ある形では、単なる欧米の紹介の域を脱していない。あるいはこういう味気なさが洋行の土産話の一ばんの好見本なのかもしれない。

ところで、まったくのそつけない記録でも、読みかたによつて別の [a] を帯びることがある。有名な『職工事情』は官庁の報告書であつて、その付録に収められた女工ギヤクタイの実例は凄惨 [b] ほどのリアリティをもつて報告されていて、明治、大正の記録文学の傑作の一つといえようが、それ以外の一般的な報告も、じっくり読んでいくにつれて、悲惨な紡績女工の世界がありありとひろげられてゆくのおぼえる。まず職工の年齢を見ると、

十一年以上ト定メタル処ニシテ各年齢以下ノ職工ヲ傭使セルモノ

男

女

摂津 一七四人

二二七人

渡辺 四

四 (以下省略)

というような統計が出ている。ややこしいいいかただが、要するに十歳以下の子供を職工として働かせている数なのである。ずいぶんひどいことをするもんだなあとおもわぬわけにはいくまい。労働時間、徹夜業による体重

の減少、雇傭契約の雛型、賃銀、数字を讀んでみると、どれも非人間的な待遇である。また賞罰について調査官と職工との問答が載っている。「七、八歳ノ幼年工ノ仕事ハ昼ダケカ夜モカ」夜モジヤ、昼ハ役人ガ喧シイカラ掃除スル。夜ハユルイカラ掃除ヲ怠ル。冬ハ自分等始終単衣一枚ジャ」一処ニ夜業スルカ」スルケレド菓子ヲクレンバ行カヌト云ウ事モアル……」工場デ寝ヌカ」眠レバ叱ラレル毆タカレル」給金ハクレルカ」八錢クレル、食料七錢ヲ取ラレルユエ一錢残ル」等々。さらに工場寄宿舎の献立表で、一年じゅう朝は香の物だけ、昼は唐菜漬、晩は高野豆腐というのを見れば、いかに栄養劣悪であるか、身にしみてわからう。こういう調査報告や数字をながめるだけで搾取ということがまざまざと浮かんでくるではないか。

どんなに無味乾燥な事務的な文書や報告でも記録にはなりうるし、稀にはそれを文学的に讀みとることもできること、すでに述べたとおりである。がしかし記録がすべてそのように讀みうるわけではなく、記録文学ともなれば一般の史料や資料とまったく質のちがうものだといわなくてはならない。もつとも単なる報告のつもりで書かれた記録が、その内容の重要さと記述・描写の適切さとによって、ひとりでに記録文学となる例もめずらしいことではない。あるいは今までの記録文学の大部分は、そういう自然発生的な成立を見たのだったかもしれない。そのために、しばしば対象の把握も不十分で表現も不正確、かつ文体もダルで、きわめて通俗的な興味だけを煽ろうとするようなルポルタージュ類が続出したのかもしれない。記録文学など、何でもありのまま書き綴ればそれで一丁出来あがりというような気持が一般にある。ありのまま書き綴ることがはたしてそんなにたやすくできるかどうかはべつとして、こういうふやけた精神から文学といつていい記録が創られるはずがない。

これからの記録文学は、自然発生的なのびやかさを失わぬことを必要とする（初心忘るべからず）としても、はつきり自覚して、「記録する対象への愛、強い関心、執着」^(注2)（大島渚）がなくては叶わぬだろう。しかも今の世界はいたるところに深淵⁽⁵⁾が口をぱっくり開いていて、まともに生きてまともにながめようとするものには、記録する対象にことかかぬであろう。ロマンティックな小説のファンは、その手の小説もたくさんあるからそれに陶酔すればよからうが、現実には小説家の想像できないまざまま新しい事件や現象を示しつづけてやまぬ。ほんと

は、昔からそうだったのだから、思いがけぬ庶民史料が書きのこされたのであるけれども、ふつうには、現実を見る目が与えられていなかったために小説の方が人生や現実より奇なりと信じられていた。しかし現代社会では、ちよつとした小説家の空想力などではとても爾の立たぬ、巨大な、深い、厚い現実にたえずぶつからねばすまない。だからすぐれた才能が、創作の中に記録を包みこんで、作品にリアリティを求めることがしばしば見られるのである。

(杉浦明平『記録文学ノート』による)

(注) 1 西藏——チベットのこと。

2 大島渚——戦後日本を代表する映画監督の一人。

問

- (A) 線部イ・ロを漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいてい}で記すこと)
- (B) 線部(a)・(c)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 線部(1)について。左記各項のうち、「文学のたのしみ」の説明と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 紙屑の山のような記録の中に、文学的な工夫の跡を見出すこと。
- ロ 記録の中の執筆者の感慨に深い感動と興味をおぼえること。
- ハ 手紙の中にあらわれたヒステリー性などをおもしろく読むこと。
- ニ 有職故実や儀礼を記録した日記とか手紙を読む楽しみのこと。
- ホ 手紙の実用的な部分に人生の相を読み取る楽しみのこと。

(D) ——— 線部(2)について。左記各項のうち、探検記や旅行記について筆者が述べていることと合致するものを

1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ 探検記の特質や定義は、時代によって変わってくる。

ロ 『回覧実記』には人間的感情が記されていないので、本来は旅行記とは言えない。

ハ 見たものに対する驚異の質と多寡が、旅行記の記録文学としての価値を左右する。

ニ 帰国後の岩倉らの振る舞いは、彼らの旅行記の覇気のなさの延長線上にある。

ホ 洋行者の旅行記の多くはひまつぶしと味気なさの産物におちいりやすかった。

(E) 空欄 [a] にはどのような言葉を補ったらいいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 様相 2 光彩 3 局面 4 役割 5 要素

(F) 空欄 [b] にはどのような表現を補うと、慣用的な言い回しとなるか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 目をそむける 2 目をおおわしめる 3 目をふさがん

4 目をむけるのをためらう 5 目をつぶらしめる

(G) ——— 線部(3)について。左記各項のうち、ここでいう「記録文学」の説明として最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 文学的に読み取られた記録のこと。

2 ありのままに率直に書き綴られたもの。

3 自然発生的ゆえに不十分になりがちなもの。

4 報告のほが内容・記述次第でそれ以上のものになったもの。

5 一丁出来あがりとみなされがちなもの。

(H) ——— 線部(4)について。ここで言う「ルポルタージュ類」の「統出」の理由を筆者はどう考えているか。句読点とも三十字以上四十字以内で説明せよ。

(I) ——— 線部(5)について。左記各項のうち、「深淵」をめぐる説明として適當でないもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 現実新しい事件や現象を示し続けている。
- 2 一般の人々はなかなかそれを見出すことができない。
- 3 小説家の空想力などではとても歯が立たない。
- 4 巨大な、深い、厚い現実と言ひ換えることもできる。
- 5 まともに生きてまともに眺めようとしてこそそれが見える。

(J) 左記各項のうち、本文に述べられている趣旨と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 歴史資料として貴重であれば、文学的価値も自然とともなう場合が多い。
- ロ 吉田松陰の手紙の見事さはおもしろいと言えるが、文学的価値や資料的価値とは別である。
- ハ 近代の記録文学は、旅行記よりも探検記のほうが、質的に優勢である。
- ニ 記録文学にとって重要なのは、自然発生的な面よりも、自覚的、執着的な面である。
- ホ 小説の中に記録を持ちこむのは、小説家の手に負えぬほど現実がとてつもなく複雑であるからである。
- ヘ ロマンチックな小説でも、混沌とした現実を捕捉することはありえないことではない。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点、送り仮名を省いたところがある。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

齊^(注1)有^ニ南^ニ北^ノ官^ノ道[。]洿^(注2)下^(注3)者^ノ里^ノ余[、]雨^(注4)多^ニ行^ノ潦[。]行^ク
 者^{もの}不^レ便^{トセ}則^チ傍^{ラニ}西^{シテ}踏^{ミテ}人^ノ田^(注5)行^ク行^ク数^ノ日^{ニシテ}而^ス成^ス路[。]田^(注6)
 家^ノ苦^シ之^ニ断^ツ以^テ横^(注7)牆[。]十^ノ步^一堵^堵数^ノ十^{ナリ}焉[。]
 行^ク者^ノ避^ケ牆^{カキテ}更^ニ西^{シテ}踏^{ムコト}田^ヲ愈^シ広^シ数^ノ日^{ニシテ}又^ス成^ス路[。]田^ノ家⁽¹⁾
 無^シ計[。]乃^チ蹲^{ウツクマリ}田^ノ辺^ニ且^ツ罵^リ且^ツ泣^キ欲^シ止^ム欲^シ訟^{ヘント}而^{シテ}無^シ
 如^シ多^ク人^ノ何^カ也[。]或^ル告^{ゲテ}之^ニ曰^ク「牆^ノ之^ノ所^ノ断^ツ已^ニ成^ル棄^ル
 地^ト矣[。]胡^{ナンゾ}不^ル仆^{タフシテ}牆^ヲ而^{シテ}使^メ之^ヲ通^{ラシメ}猶^シ得^ル省^{ケテ}於^テ牆^ノ之^ノ更^ニ
 西^{スル}者^ノ乎^{カト}」予^ハ笑^{ヒテ}曰^ク「更^ニ有^リ奇^キ法[。]以^テ築^ク牆^ヲ之^ノ
 土^ヲ塾^{オきなハバ}道^ヲ則^チ道^ヲ平^{ラカナラン}矣[。]道^ノ平^ク人^ノ皆^シ由^{ラン}道^ニ又^{シテ}不^レ省^カ
 於^テ道^ノ之^ノ□^者乎^ヤ安^ク用^レ牆^ヲ為^シ越^{エテ}数^ノ日^{ニシテ}道^ヲ成^リ
 而^{シテ}道^ノ傍^{ラニ}無^シ一^ノ人^ノ跡^モ矣[。]

(呂坤『呻吟語』による)

(注)

- 1 齊——現在の山東省。
- 2 滂下——低くて水はげが悪い。
- 3 里——長さの単位。本文が書かれた明代には約五七六メートル。
- 4 行潦——道路の水たまり。
- 5 田畑。
- 6 田家——農家。
- 7 横牆——横向きの塀。
- 8 歩——長さの単位。明代には約一・六メートル。
- 9 堵——土塀。
- 10 為——反語を表す助字。

問

- (A) 線部(a)の訓みとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 やうやく
 - 2 しはしば
 - 3 こもこも
 - 4 いよいよ
 - 5 はなはだ
- (B) 線部(b)の訓みとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 いづくんぞ
 - 2 たれか
 - 3 いかんぞ
 - 4 あに
 - 5 なんすれぞ
- (C) 線部(1)の訓読として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 なきはひとおほきがごとくなるはなんぞや
 - 2 ひとおほきをいかんともするなきなり
 - 3 ひとおほきこといかんぞなからんや
 - 4 ひとおほきにしくなきはなんぞや
 - 5 ひとおほきことのなんたるかにしくはなきなり

(D) 線部②の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 塀を倒して通行できるようにすることなどできない。
- 2 塀を倒さないままで通行できるようにしたらいいではないか。
- 3 塀を倒して、通行できないようにしたらいいではないか。
- 4 塀を倒さないままで通行できるようにすることなどできない。
- 5 塀を倒して、通行できるようにしたらいいではないか。

(E) 空欄 にはどんな言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 南
- 2 北
- 3 東
- 4 西
- 5 中

(F) 「予」の考えとはどのようなものか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 目の問題に対処し、その結果を踏まえて微修正しながら一步一步解決に近づけるべきである。
- 2 問題が発生したら、行政機関に頼らず、民間で工夫・努力したほうがすばやく解決できる。
- 3 問題が発生してくる根本のところに目を向ければ、よけいな労力を払わずに解決できる。
- 4 人々が自分の土地への執着を棄てて公共精神に目覚めれば、複雑な問題もおのずから解決できる。
- 5 問題行動を止めさせるには、相手の作戦の裏をかくて、機先を制することが大切である。

三 左の文章は、光源氏の生母、桐壺更衣の死後、勅命命婦が桐壺帝の勅使として光源氏を養育している故大納言の妻（桐壺更衣の母）の邸を訪ねた場面の一節である。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

「命長さの、いとつらう思ひたまへ知らるるに、(注1)松の思はむことだに、恥かしう思ひたまへはべれば、(注2)ももしきに行きかひはべらむことは、まして、いと憚り多くなむ。かしこき仰せ言を、たびたびうけたまはりながら、みづからはえなむ思ひたまへたつまじき。(注3)若宮は、いかに思ほし知るにか、参りたまはむことをのみなむ、(注4)思し急ぐめれば、ことわりに、(注5)悲しう見たてまつりはべるなど、うちうちに、思ひたまふるさまを奏したまへ。ゆゆしき身にはべれば、かくておはしますも、(注6)いまいまい、かたじけなくなむ」とのたまふ。

宮は大殿籠りにけり。「見たてまつりて、くはしう御ありさまも奏しはべらまほしきを、(注7)待ちおはしますらむに。夜更けはべりぬべし」とて急ぐ。

「くれまどふ心の闇もたへがたき片はしをだに、晴るくばかりに聞こえまほしうはべるを、(注8)私にも心のどかにまかでたまへ。年ごろ、うれしく面だたしきついでにて、(注9)立ち寄りたまひしものを、かかる御消息にて見たてまつる、かへすがへすつれなき命にもはべるかな。(注10)生まれし時より思ふ心ありし人にて、故大納言、いまはとなるまで、ただ、『この人の宮仕への本意、かならず遂げさせたてまつれ。我亡くなりぬとて、(注11)口惜しう思ひくづぼるな』と、かへすがへす諫めおかれはべりしかば、はかばかしう後見思ふ人もなき交らひは、(注12)なかなかなるべきことと思ひたまへながら、ただかの遺言を違へじとばかりに、出だしたてはべりしを、身にあまるまでの御心ざしの、よろづにかたじけなきに、(注13)人げなき恥を隠しつつ、交らひたまふめりつるを、人のそねみ深くつもり、安からぬこと多くなり添ひはべりつるに、よこさまなるやうにて、遂にかくなりはべりぬれば、かへりてはつらくなむ、かしこき御心ざしを思ひたまへられはべる。(注14)これもわりなき心の闇になむ」と言ひもやらず、むせかへりたまふほどに、夜も更けぬ。

(注) 1 松の思はむこと——「いかでなほありと知らせじ高砂の松の思はむことも恥づかし」(古今和歌六帖)を踏まえた表現で、

長寿の松に自分がまだ生きているのかと思われることの意味。

2 ももしき——宮中の意。

3 若宮——光源氏を指す。

4 心の闇——亡き娘を思う親の心の闇をいう。「人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道にまどひぬるかな」(後撰和歌集)を踏まえた表現。

問

(A) ~~~~~線部の現代語訳を七字以内で記せ。

(B) ——線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 とても愛情を断ち切ってしまうそうにもありません
- 2 とても縁を切るような気になれそうにもありません
- 3 とても参内を決意する気になれそうにもありません
- 4 とても出家するような気になれそうにもありません
- 5 とてもずっと思悩んでいられそうにもありません

(C) 線部(2)について。なぜ悲しく思うのか。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 桐壺帝の愛情がこのまま続くとは思えないから。
- 2 嫉妬深い宮中に若宮を住まわせることになるから。
- 3 娘の桐壺更衣の死が改めて思い出されるから。
- 4 若宮が宮中に行くと、別れることになるから。
- 5 若宮に対する批判が宮中にうずまきそうだから。

(D) 線部(3)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 縁起でもないさま 2 おそれ多いさま 3 恐ろしいさま
- 4 残念であるさま 5 並々でないさま

(E) 線部(4)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 私たちにもゆつくりとお話してください
- 2 私どもの所からゆつくりお帰りください
- 3 私邸の方にもゆつくりとお越しください
- 4 お一人でゆつたりとお暮らしてください
- 5 帝の使者ではなくゆつくりとお出かけください

(F) 線部(5)について。何を思い願っていたのか。それを示す語句を本文中から抜き出し、三字以内で記せ。

(G) 線部(6)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 劣っていると思っではないけない 2 思い上がっではないけない
- 3 考え違いをしないといけない 4 気をもんではないけない
- 5 志を捨ててはいけない

(H) 線部(7)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 いかにも大切であるはずのこと

2 むしろしない方がましに違うこと

3 中途半端な状態であると思われること

4 かえって積極的に行う方がよいこと

5 容易にはできそうにないこと

(I) 線部(8)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 まったく大人らしくない

2 一人前の扱いをされない

3 妻らしく振る舞えない

4 人気のない所で寂しく暮す

5 世間から疎まれている

(J) 線部(9)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 あつてはならないさま

2 心細そうであるさま

3 愚かであるさま

4 理性を失ったさま

5 程度がはなはだしいさま

(K) 線部(イ)・(ロ)はそれぞれ誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1 桐壺帝

2 桐壺更衣

3 光源氏(若宮)

4 故大納言

5 故大納言の妻

6 鞠負命婦

(L) 線部(a)・(b)の文法上の意味は何か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

1 自発

2 受身

3 可能

4 尊敬

【以下余白】